

都道府県柔道連盟（協会）会長・安全指導員各位

重大事故総合対策委員会

委員長 磯村 元信

（公印省略）

年度初めにおける重大事故防止の徹底について

平素より当連盟事業にご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、新年度を迎えて、新たに柔道を始めた初心者も加わり、地域の大会や他校との合同練習、練習試合等に向けて日々の練習も活発に行われる期間に入っています。

毎年、この時期に初心者を含めた重大事故が発生しています。特に、コロナ禍以降の傾向として、頭部・頸部の重大事故が再び増加傾向にあります。昨年度は、成人女性の初心者が急性硬膜下血腫により死亡に至る重大事故も発生しました。脳しんとうの事故報告も増加傾向にあり、その延長線上で重大事故の件数が再び増加することが強く危惧されます。さらに、近年の重大事故の分析では、初心者とともに、一般成人の致命的な事故の報告も続いています。

こうした現状を踏まえ、改めて以下の事故防止の留意事項を参考に、重大事故ゼロに向けて一層のご協力をお願い申し上げます。

重大事故防止の留意点

- コロナ禍以降、子どもに限らず運動離れの傾向が見られる。従前に比べて基礎体力や筋力、受け身等が十分に備わっていない状況から、頭部・頸部の重大事故が発生する危険性が高まっている。
- 初心者が試合に向けた練習で重大事故が発生したり、成人や経験者が十分な練習を積まずに試合に出場しての重大事故が発生している。基礎体力や筋力、受け身が十分に備わっているか、十分な練習ができているかなどを把握して、計画的な練習や試合を実施する。初心者の練習や試合には特段の配慮を徹底する。

初心者の重大事故防止の徹底事項

- 初心者には少なくとも 3 カ月程度は高い位置からの投げ込みを行わせない。
特にこの時期は初心者に大外刈りの投げ込みを受けさせない。
- 全柔連に登録前の新入生や初心者が重大事故に被災し、見舞金が支払われない事例が散見される。登録は早めに済ませる。
- 大外刈りの高い位置からの投げ込み（受の両脚が宙に浮くような投げ込み）、および投げ技の乱取りは少なくとも 5 カ月程度経過してからとする。
- 試合や練習試合等への参加は少なくとも 6 カ月以上経過してからを徹底する。
- 試合優先の練習に陥らないように、初心者一人一人の体力や運動能力、受け身や技の習熟度を踏まえた練習を行い、試合への参加時期も個々の習熟度に応じて個別に判断することを徹底する（昨年度は柔道歴 7 カ月で急性硬膜下血腫の事故が発生した）。